

反キリストの勃興と滅亡

■はじめに

熊本集会では、中川先生のメッセージ・シリーズ「黙示録」に基づいて、終末に起きる出来事を時系列で見えています。前回までで、下の3番の表、③の大患難期の間で起きる事までを学びました。この資料の5ページまでは、これまでの内容のまとめです。

本日は、「反キリスト」にフォーカスを当てて聖書の関連箇所を学びます。この内容は、フルクテンバウム博士のメシア的バイブル・スタディ・シリーズの第10番目「反キリストの勃興と滅亡」に基づきます。この資料の6ページからです。

■黙示録のアウトラインと概要

1. 黙示録のアウトライン (1:19)

- (1) 序文 (1:1~8)
- (2) ヨハネの見た事 = 天におられる主イエス・キリストの姿と啓示 (1:9~20)
- (3) 今ある事 = 七つの教会に宛てた手紙 (2章~3章)
- (4) この後に起きる事 = 大患難期・メシアの王国・永遠の秩序 (4章~22:5)
- (5) 結語 (22:6~21)

2. 今ある事 = 当時実在した教会の状況→教会時代の七つの流れを預言したもの  
→携挙のときに存在する教会のタイプは⑦に限らず、特に④⑥

	教会名	意味=特色	時代区分	時期
①	エペソ	好ましい	使徒時代 (第2世代)	30~ 100
②	スミルナ	没薬	ローマの迫害の時代	100~ 313
③	ペルガモ	結婚した	国家教会となった時代	313~ 600
④	テアテラ	継続した犠牲	分裂と暗黒の時代	600~1517
⑤	サルデス	逃れる者	宗教改革の時代	1517~1648
⑥	フィラデルフィア	兄弟愛	大宣教運動の時代	1648~1900
⑦	ラオデキア	人々が支配する	背教の時代	1900~現在

3. この後に起きる事

	区分	黙示録の箇所	
①	大患難期の前に天で起きる事	4章~5章	
②	大患難期【7年間】	前半期	6章~9章
③		途中で起きる事	10章~14章
④		後半期	15章~16章
⑤		二つのバビロン	17章~18章
⑥	再臨とその後の出来事	19章~20:3	
⑦	メシアの王国【千年間】	20:4~6	
⑧	メシアの王国の後の出来事	20:7~15	
⑨	永遠の秩序	21章~22:5	

■ **この後に起きる事** 3-① 大患難期の前に起きる事

1. 大患難期の前に天で起きる事 (黙示録 4 章・5 章)
  - (1) 神の御座の前で (4 章) : セラフィムと 24 人の長老たち
  - (2) 小羊と 1 本の巻き物 (封印 7 か所) の登場 (5 章)
2. 大患難期の前に地上で起きる事 (黙示録以外の箇所から)
  - (1) 世界的規模での戦争や大地震が起きる (マタイ 24 : 1~8)
  - (2) 不信仰のイスラエルが約束の地へ帰還し (エゼ 20 : 33~38)、再び建国する。
  - (3) イスラエルがエルサレムを領有する【神殿再建の前提】。
  - (4) ロシアとその同盟軍がイスラエルに侵攻する。しかし逆にロシアが壊滅状態となる (エゼキエル 38 : 1~39 : 16)。
  - (5) 国際社会の再編 (ダニ 7 : 19~24)
    - ① いったん世界統一政府をつくる (23 節「全土」)。
    - ② まもなく 10 の主要国家が分担する地域分割統治体制に移行する (24a)。
    - ③ 反キリストは、10 の主要国家ではない小国から登場する (20、24b)。
    - ④ この時期は、大患難期前のつかの間の平和と安全 (1 テサ 5 : 1~3)
  - (6) 反キリストは、イスラエルと国家レベルでの条約を締結交渉する立場になる。
  - (7) 時点は不明だが、預言者エリヤがイスラエルに遣わされる (マラキ 4 : 5~6)

■ **この後に起きる事** 3-② 大患難期の前半期に起きる事 (黙示録 6~9 章)

1. 封印の裁き (6 章)
  - (1) 第一の封印 (1~2 節) : 反キリストが国際舞台に登場し、勢力を伸ばしていく
  - (2) 第二の封印 (3~4 節) : 世界的規模での戦争 (世界大戦 I)
  - (3) 第三の封印 (5~6 節) : 穀物の高騰、平時の 10 倍の価格
  - (4) 第四の封印 (7~8 節) : 地上の四分の一の人が殺される。戦争、飢饉、疫病
  - (5) 第五の封印 (9~11 節) : 大患難期の殉教者
  - (6) 第六の封印 (12~17 節) : (ここから、神の直接的介入による破壊) 大地震、太陽が黒くなる、月が赤く血の色になる、星々が落ちる。不信者たちはほら穴と山の岩間に隠れる。17 節「だれがそれに耐えられよう」
2. 誰が大患難期を通過して御国に入るか=誰が伝道し、誰が救いを受けるのか (7 章)
  - (1) 14 万 4 千人のユダヤ人 (4~8 節)
  - (2) 諸国からの大群衆 (9~17 節) : しゅろの枝は勝利者のしるし
3. ラッパの裁き (第七の封印が解かれて登場) (黙示録 8~9 章)
  - (1) 第一のラッパ (7 節) 植物の祝福が取り去られる
  - (2) 第二のラッパ (8~9 節) 海の祝福が取り去られる
  - (3) 第三のラッパ (10~11 節) 水の祝福が取り去られる
  - (4) 第四のラッパ (12~13 節) 光の祝福が取り去られる
  - (5) 一羽の鷲 (おそらく、セラフィムのひとり【セラフ】) による警告
  - (6) 第五のラッパ (9 章 1~11 節) アビスから出て来た悪霊たちによる攻撃
    - ① 限定的 : 期間 (5 か月間)、対象 (不信者)、程度 (死ぬことはない)
    - ② 第一のわざわい

- (7) 第六のラッパ (12～21 節) 二億人の悪霊の軍勢が人類の 3 分の 1 を殺す。人々はそれでも悔い改めない。第二のわざわい

■ この後に起きる事 3-③ 大患難期の中で起きる事 (黙示録 10～14 章)

1. 小さな巻物 (10 : 1～11)
  - (1) もうひとりの天使 (1～4) : 海と地の上に立つ天使
  - (2) 世の終わりの宣言 (5～7)
  - (3) 小さな巻物を食す (8～11)
2. 二人の証人 (11 : 1～13)
  - (1) 神の測りざお (1～2)
    - ① 杖のような測りざお=ヨルダン川の岸辺に育つ葦 (6 メートルほど)、長くて軽くて堅い葦は測りざおとして用いられた。
    - ② 異邦人は、エルサレムを 42 か月間 (患難期後半の 3 年半) 踏みにじる。
  - (2) ふたりの証人の活動 (3～6)
    - ① 活動期間は 1260 日間 (大患難期前半期の 3 年半)
    - ② ゼカ 4 章、2 本のオリーブの木と一つの燭台の幻 (ゼルバベル、ヨシュア、イスラエル民族) →二人の証人は、聖霊に満たされて暗やみを照らす働き
  - (3) 二人の証人の死と復活 (7～13)
    - ① 1260 日活動した後、殺され、死体がさらされる。3 日半のちに復活し、昇天。
    - ② 「底知れぬ所から上って来る獣」=アビスから上って来る反キリスト
      - 反キリストはこの直前に中東地域での戦闘で戦死する (ダニ 11 : 45)
      - その靈魂はハデスの中の「苦しみ場所」ではなく、「アビス (底知れぬ所)」に落ちる。アビスは悪霊を一時的に留置する所。反キリストの超自然的な出自を暗示。そこから上るといふのは、生き返ったということ。
      - 二人の証人が死んで、世界中が喜ぶ。
    - ③ エルサレムは墮落していて、神の目からはソドムやエジプトと呼ばれる。
      - ソドムは、性的倒錯の罪。エジプトは、神の民に対する迫害。
3. 第 7 のラッパ (11 : 14～19)
  - (1) 第 7 のラッパ → 7 つの鉢の裁き=これら全体が「第 3 のわざわい」
  - (2) 鉢の裁きは、大患難期の後半期で起きる。
  - (3) 前半期は、二人の証人の死と復活で終わる。
  - (4) 第 7 のラッパは、後半期への移行を告げる。後半期の始まりは、「イスラエル民族の中の信仰ある者たち (イスラエルの残れる者、レムナント) が荒野に逃げる」という出来事。これが次の 12 章の中心テーマ。
4. イスラエルに対する戦い (12 : 1～17)
  - (1) ひとりの女 (1～2) =イスラエル民族 (参照、創 37 : 9～11)
  - (2) 赤い竜 (3～4)
    - ① 七つの頭と十本の角、その頭には七つの冠をかぶっていた。
      - ダニ 7 章の 4 つの獣 (獅子、熊、ひょう、第四の獣) =4 つの強国
      - その頭と角を合計すると七つの頭と十本の角。異邦人の強国の背後にサタンがいて、サタンの権威を分与していたことが分かる。

- ② サタンは、メシア誕生に際して、天にいる自分の支配下の悪霊（天使の3分の1）を総動員して、地上に送り、メシアの活動を妨害する。
- ③ 大患難期の間、イスラエル民族の中の信仰ある者たち（＝イスラエルの残れる者たち、レムナント）は荒野に逃げる。
- ④ そこには、神によって備えられた場所があり、そこで1260日間、神によって養われる。
- (3) 天での戦い（7～9） サタンと墮天使たちは、天から地上に落とされる。
- (4) 天に起こる声（10～12） もはやサタンが信者を神の御前に訴えることはない。
- (5) レムナントを迫撃して失敗する竜＝サタン（13～16節）
- ① 大鷲の翼を二つ与えられた。鷲の翼＝出19：4
- ② レムナントは、「ひと時とふた時と半時」（＝ダニ12：7、3年半）、大患難期の後半期において、荒野にて守られる。
- ③ 大水＝大軍
- ④ 地が口を開いて、大軍を飲み込む。
- (6) 女の子孫の残りの者を迫害する竜（17節）
- ① イスラエル民族の中でも、「神の戒めを守り、イエスのあかしを保っている者たち」に攻撃的を絞る。離散の民の中にもメシアを信じる者が多く出ている。
- ② 迫害されるユダヤ人たちに諸国民がどのような態度をとるのか（反キリストに従ってユダヤ人迫害の側に立つか、それとも、イエスをメシアと信じて受け入れ、その信仰に基づいてユダヤ人を助けるのか、二つに分かれる）
- ③ その結果が、メシア再臨後の諸国民のさばき（マタイ25：32～46）
5. 海からの獣（12：18～13：10）＝ダニ7章の預言「第四の獣」（ダニ7：7）、「第四の国」（ダニ7：23）の、その最終段階の姿。頭は一つではなく、七つ。
- (1) 獣の形状（12：18、13：1～2）
- ① 彼（サタン）は海べの砂の上に立った。海＝諸国民、異邦人世界。
- ② 七つの頭と十本の角、その角には十の冠、その頭には神をけがす名があった。
- ③ ダニ7章の第四の獣（ダニ7：7～27）
- 大きな鉄のきば
  - ひとつの頭に、十本の角（＝10人の王）。
  - 11番目の小さな角が出てきて、初めの10本のうちの3本の角が引き抜かれる。
  - 小さな角は、反キリスト。
  - この戦いが、大患難期の間における世界大戦Ⅱ。
- ④ 他の残り7本の角は、反キリストに服従する。かくして第四の獣は、10人の王による分割統治体制から反キリストによる独裁統治体制へと移行する。
- ⑤ 七つの頭は、ここに至るまでの「第四の国」の発展段階を示す（黙17：9～11）
- 王政→執政官→護民官→共和政→寡頭政
  - 6番目の頭：（帝政・東西分立・統一・10地域分割統治）
  - 7番目の頭：反キリストによる世界統治
- (2) 獣のよみがえり（3～4）
- (3) 獣の支配（5～8）
- (4) 励ましのことば（9～10）

6. 地からの獣（13：11～18）＝偽預言者
  - (1) 獣の形状（11～12）
    - ① 地は、天との対比。聖霊は天から下って来られた。偽預言者は地から上る。
    - ② 「小羊のような二本の角」は、真の小羊キリストとの対比。偽の宗教で人々を支配し、反キリストを支援する。
    - ③ 父・子・聖霊の三位一体に対して、サタン・反キリスト・偽預言者の三者連合。
  - (2) 獣が行う奇蹟（13～15）
  - (3) 獣の刻印（16～18）
7. 天からの七つの宣言（黙 14：1～20）
  - (1) 第一の宣言：シオンの山の上の 144,000 人（1～5） 千年王国の情景を予告映像
  - (2) 第二の宣言：永遠の福音（6～7） 最後まで神は救いの福音を人類に示す
  - (3) 第三の宣言：バビロンの崩壊予告（8） このあと、実際にバビロンは 2 回倒れる
  - (4) 第四の宣言：獣を拝む者たちへの警告（9～11）
  - (5) 第五の宣言：聖徒たちへの励まし（12～13）
  - (6) 第六の宣言：穀物（＝信者）の刈り取り（14～16） 後半期でも救いを受ける人が大勢いる
  - (7) 第七の宣言：神の激しい怒り（17～20） ハルマゲドンの戦いの第 7 段階 熟したぶどうは、反キリストの軍勢。攻撃したペトラ（ボツラ）から再臨のメシアによって押し返されて、エルサレム郊外の谷まで敗走し、そこで壊滅する。その予告。

## □反キリストの勃興と滅亡

## 1. 反キリストの名

- (1) サタンの子孫 (創 3 : 15)
- (2) 小さな角 (ダニ 7 : 8)
- (3) 横柄な王 (ダニ 8 : 23)
  - ① 新改訳「横柄で狡猾なひとりの王」
  - ② 原語 ひとりの王・強い顔つきの、闇の格言を理解する
  - ③ 英語訳 ひとりの王・強い顔つきの、トリックに長けている
  - ④ 8 : 24
    - 彼自身の力によるのではない＝サタンの力による
    - 聖徒の民：原語は「聖なる民」＝イスラエル
  - ⑤ 8 : 25
    - 君の君： 君主（複数形）の中の君主＝メシア
    - 人手によらずに、彼は砕かれる (ダニ 2 : 34~35、Ⅱテサ 2 : 8)
- (4) やがて来たるべき君主 (ダニ 9 : 26)
- (5) 荒らす忌むべき者 (ダニ 9 : 27)
- (6) この王 (ダニ 11 : 36)
  - ① 11 : 21 の「ひとりの卑劣な者」は、第三の国ギリシヤ時代に出る。その所業は、反キリストの型。11 : 35 までは、ギリシヤ時代に起こる事の預言。
  - ② 11 : 36~45 は、第四の国に関する預言。
  - ③ 36 節 憤りが終わるまで＝大患難期が終わるまで
  - ④ 37 節 女たちの慕うものも心につけない
    - 女の愛を求めない、女も彼を慕わない
- (7) 不法の人、罪の人 (Ⅱテサ 2 : 3)
- (8) 滅びの子 (Ⅱテサ 2 : 3)
- (9) 不法の人 (Ⅱテサ 2 : 8)
- (10) 反キリスト (Ⅰヨハ 2 : 22)
- (11) 獣 (黙 11 : 7)

## 2. 反キリストの出自

- (1) 反キリストの人間的な出自 (ダニ 9 : 26~27)
- (2) 反キリストの超人的な出自 (創 3 : 15)

## 3. 反キリストの登場

- (1) 1 回目の登場＝大患難期の前に、信者のために、明らかにされる。Ⅱテサ 2 : 1~3
  - ① 主の日＝大患難期
  - ② 3 節 大患難期の前に 2 つの出来事が先行しなければならない。一つは、教会の背教、もう一つは「罪の人・・・滅びの子」が明らかになることである。
  - ③ 携挙の前かどうかは不明。携挙の後であれば、携挙の後に救いを受ける信者たちのために明らかにされる。
- (2) 2 回目の登場＝中間期に、イスラエルに向けて、荒らす忌むべき者として。

## 4. 反キリストと大患難期の始まり

- (1) ダニ 9 : 27 イスラエルと 7 年間の条約を結ぶ

- (2) 黙 6 : 1~2 反キリストはこの条約をてこに、世界征服に向けての動きを始める
  - (3) 途中で、反キリストは 10 人の王のうち 3 人を倒し、残り 7 人は反キリストに服従する (ダニ 7 : 24、黙 17 : 13、17)。
5. 反キリストの勃興
- (1) ひと言で言えば、かつてメシアが拒否したサタンの申し出「私を拝むなら、国々のいっさいの権力と栄光を与える」(ルカ 4 : 6) を、反キリストは受け取る。
  - (2) 反キリストがサタンの申し出を受け取った (ダニ 11 : 38~39) ときに、彼は世界の政治的支配権と宗教的支配権の両者を手中にすることを約束される。
  - (3) ダニ 8 : 23~25
    - ① 23 節 反キリストは強い顔つきの王、闇の格言を理解する (サタンに通じる)
    - ② 24 節 その力はサタン由来。その力でイスラエルを滅ぼそうとする
    - ③ 25 節 彼の特徴は、悪だくみと欺き。
    - ④ 君の中の君 = メシア に対立する
  - (4) ダニ 11 : 36~39
    - ① 36 節 反キリストは心の悪い王、自分を神よりも高い者とする
    - ② 37 節 彼は女性の愛を望まない。彼は非人間的で、女性が嫌がるタイプ。サタンと女性との間にある敵意が見える。
    - ③ 38~39 節 完全にサタンのコントロール下にある。母方の先祖が決して崇拝しなかった神を尊重する。とりでの神 (要塞の神) = サタン
6. 政治的支配権の掌握
- (1) 彼の試みは、いったんは彼が死んで、止まる。
  - (2) 生き返って、その後、世界大戦Ⅱを戦い、10 人の王のうち 3 人を倒す (ダニ 7 : 24)
  - (3) 残った 7 人の王は、反キリストに服従する (黙示 17 : 12~13、17)
  - (4) 反キリストは、世界全土を支配下に置く。例外は、ヨルダン (ダニ 11 : 41)。この地域には、イスラエルが逃げる荒野がある。
7. 宗教的支配権の掌握
- (1) 政治的支配権の掌握と並んで重要なことは、宗教的な反対者を排除すること。反対者は 3 ついる。
  - (2) 第一 宗教的バビロン 黙示 17 : 16
    - ① 大患難期前半期では、10 人の王たちの支持を受けて、宗教的バビロンが世界の宗教界を支配した
    - ② 王たちは心底から統一宗教を好んでいたわけではない。反キリストが新たな世界宗教のシステムを作るといふ方針を出すと、これまでの態度を変え、バビロンを破壊する。
  - (3) 第二 二人の証人 黙示 11 : 7
  - (4) 第三 聖徒たち ダニ 7 : 25 真の神を礼拝する人々を抹殺することで、地上から真の神の記憶を一掃しようとする。
8. 反キリストの死と復活
- (1) 十人の王との戦い、中間期の世界大戦Ⅱの中で死ぬ (ダニ 11 : 40~45)
    - ① 反キリストが十人の王に宣戦布告して大戦が開始。
    - ② 特に二人の王、南の王 (エジプト) と北の王 (シリア) が向かってくる。

- ③ 反キリストは、イスラエルに攻め入るが、ヨルダンだけは免れる。
  - ④ エジプト、リビア、エチオピアを征服する。
  - ⑤ しかし、3番目の主要な王、東の王、メソポタミアが立ち向かってくる。おそらく、反キリストは、この戦いで戦死する。
- (2) 生き返る (黙示 13 : 1~8)
    - ① 反キリストは、アビス (底知れぬ所) から生き返る。
    - ② 反キリストは多くの人を欺き、自分を礼拝させる。これが「荒らす忌むべき者」につながる。
    - ③ 聖徒たちとの戦いに進む。
9. 荒らす忌むべき者 (荒らす者と忌むべき者)
- (1) その内容
    - ① ダニ 9 : 27
    - ② その期間 ダニ 12 : 11
    - ③ マタ 25 : 15
    - ④ 黙 11 : 1~2
  - (2) 第1段階 (荒らす者)
    - ① 神殿を占拠、至聖所に座って、自分を神と宣言する IIテサ 2 : 3~4
    - ② しるしを行う IIテサ 2 : 8~12
  - (3) 第2段階 (忌むべき者)
    - ① 偽預言者が登場。反キリストを礼拝させる。神殿に反キリストの像を置く (黙 13 : 11~15)
10. 反キリストの滅亡
- (1) 滅亡の始まりは、軍隊の召集 黙 16 : 12~16
  - (2) 反キリストの死 IIテサ 2 : 8
  - (3) 反キリストの霊魂はハデスの「苦しみ場所」へ イザヤ 14 : 9~11
  - (4) 反キリストの死体は、葬られずに放置される イザヤ 14 : 16~20
  - (5) 反キリストは復活して、生きてまま火の池へ 黙 19 : 19~21
    - ① 反キリストの復活は、第二の復活の初穂
    - ② 第一の復活 黙 20 : 5~6
      - その初穂はメシア Iコリ 15 : 20
    - ③ 第二の復活 黙 21 : 12、ヨハネ 5 : 29
      - 善を行う = 神を信じる、悪を行う = 神を信じない